

令和6年度 こばの花 アンケート

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援 こばの花			
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年12月28日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年12月28日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(理学療法士・保育士・児童指導員等々の職員)による療育を行うことで、専門的に子どもたちと関わることで、より専門的に療育にあたることができる。また療育内容や教材作成にあたり、様々なアイデアを出し合うことで、楽しみながら療育ができる活動内容に努めている。	その日の活動の様子での困り関等々、職員間で共有することで、次の療育をどうしていくのかを一緒に考え取り組みの中に盛り込むことができている。また、自分たちで解決できない時は代表への報告等々を含め、課題解決に努めている。	今後も職員間での情報共有や困り関等々を共有しながらよりよい療育ができるよう、環境設定や時間の確保を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	状況判断をし、自ら積極的に行動に移す意識・判断力を高める。	子どもたちへの療育中にそれぞれの担当(指導者・見守りサポート)等の役割があるが、担当に縛られている意識がある。	指導者は、全体に向けての指導や個々の気づきがあった場合、その都度指導を行うが、見守りサポートを行う支援者にあたっては、子どもの表情はもちろん、指導者の意図を考え行動に移すことができるよう、目的や目標、問題行動があった時の対処等々の打ち合わせ等々を行うことでスムーズな療育が行えるのではないかと考える。